



# さくしん

(校長室だより 18)

H 2 1 年 1 1 月 3 0 日

下氷鉋小学校

校長 大内 徹

'09 年もわずか一ヶ月となりました。本校でもインフルエンザが猛威を奮い、学級閉鎖をした学級が 14 学級ほどありました。お子様の健康状態で心配されたご家庭も多いことと思います。今日は全学級が出そろいましたが、インフルエンザ罹患児童数もまだ多く油断ならぬ状況であります。第 2、第 3 のインフルエンザの波が押し寄せてきている学校もあります。マスクの着用、うがい、手洗い、換気等の励行により、インフルエンザの予防に更に努めていきたいものです。

さて、11・7 (土) の PTA 作業では多数の保護者の皆様においでいただき、日頃職員や子ども達の手だけでは追いつかない仕事をやっていただきました。お陰様で教育環境もだいぶ整い、本年のよき締めくくりができますことを心より感謝申し上げます。また、ホタル再生事業の一つである井戸の掘削も終了し、昇降口前の池の完成も間近となりました。10・24 (土)、11・1 (日) の両日にはホタルの再生作業として、多数の保護者の皆様にもおいでいただき水路の石積みを行いました。私は一回目は都合悪く参加できませんでしたが、二回目には是非ともという気持ちで参加し、実行委員の方々にご一緒して軽トラで犀川の川原に小石を集めに行って来ました。作業が終わり、びっしりと石で敷き詰められた水路を見ていると、参加いただいた方々のご苦労がずっしりと伝わってきました。また、前述の 7 日の PTA 作業では水路に橋をかけていただきましたが、橋の材料として用意された縦に真っ二つに割られた丸太が、校庭の南側に埋まっていたアスチック用の丸太を利用したものであることを知って、そのリサイクル力やアイデアの素晴らしさに感動しました。春の PTA 作業の折、お父様方が太い丸太にロープを巻き付け、テコの原理を利用して苦労して掘り出していただいた時のことを思い浮かびました。保護者や地区の皆様がホタルの再生を夢見ながら目を輝かせて語っている姿が印象的でした。水路に井戸からの水が流れるのが待ち遠しいです。学校ではホタルの餌となるカワニナを採集しては、昇降口前の水槽で飼育しているのですが、採集時に一緒についてきたと思われる蛭 (ヒル) が発生しました。ヒルを除去して水を換えたところ、急変した水環境のせいか川蝻の多くが死んでしまい悪戦苦闘しております。

豊野西小学校でもホタル飼育に挑戦していると聞いて、先日早速同校に見学に行ってきました。20 年前からの地域の事業で、最近では辰野のホタルに負けないうらいホタルが飛び交うようになっているようです。学校でホタルを環境教育の一環として飼育するようになって 3 年目ということでした。毎年 6 年生が飼育に取り組むのだそうです。他校に比べて自然環境や条件の面で整ってはいませんが、全て何事にも第一歩があることを肝に銘じて、ホタル再生に向けての歩みを一歩ずつ重ねていきたい決意しております。

さて、先月は「仲良し旬間」があり、友達のあり方や人権についての学習をしました。仲良し旬間に向けての校長講話の中でお話した幾つかの事例から二つほど紹介致します。

私が先月のある朝校内をまわっていると、一年生の M さんが「手を広げて！」と言って、私の手のひらにパラパラと朝顔の種を入れてくれました。一年生がベランダにきれいに咲かせてい

た朝顔の種です。最後の最後まで水をやって見守っていた朝顔、そこからとった種であることを思うと、大切な宝物に思えました。翌朝、Mさんが「あの種どうした…?」と言ってまた声をかけてきました。「大切に封筒に入れて机にしまってあるよ。ありがとうね」と答えると、安心したようにまた新たに何粒か種をくれました。全部で13粒となりました。Mさんのこのような優しい心に触れながら、私自身とっても温かで幸せな気持ちになりました。大切にしまって来年、プランターに蒔いて育てようと思っています。

校長講話でこのことについてお話した翌日だったでしょうか、Mさんが今度はきれいな紅葉の葉っぱを校長室に持って来ました。「あげる」と言うので、お返しにドングリこま（ドングリに短い楊枝を軸として刺して作ったもの）を一つあげました。実によく回るんです。きっと教室に持ち帰って友達と一緒に遊んだのでしょう。翌日、同じ組の子ども達が銀杏の葉っぱやドングリを持って校長室にやって来ました。校長室に行けば、ドングリこまがもらえるということが口コミで伝わったようです。葉っぱやドングリ等を持ってこなくても、ドングリこまならいくらかでもプレゼントするのに……。子ども達はお店屋さんごっこのつもりなののでしょうか、お札がわりに葉っぱやドングリを手にしては私の所にやってくるのです。そのような姿が大変可愛らしかったです。広徳中の校庭のまわりから採集してきた沢山のドングリが役立ちました。楊枝の軸を下に回しても、上にして回してみてもよく回ります。小さな子どもの手では最初からはうまく回せないようです。Mさんはお家に持ち帰ってお父さんとどちらがよく回すことができるか勝負したそうです。でも、お父さんにはかなわなかったようです。

朝顔の種や木の葉、そしてドングリこまから発した出来事でしたが、私はこのことから多くのことを学びました。子どもであれ、大人であれ、ちょっとした何気ない働きかけや言葉のやりとりが、人の心を温かにするだけでなく、相互の関係をより深く豊かなものへとつないでいくことを実感しました。

もう一つの事例は、私が用事のため玄関で靴を履き替えて外に出ようとしていた時のことです。6年生のYさんが、「お疲れ様です」と声をかけてくれました。ちょっと私が忙しそうに見えたのかもしれませんが、6年生とはいえ小学生の皆さんからそのような言葉をかけていただけるなどとは考えてもいなかっただけにびっくりしてしまいました。もちろん、これもうれしいびっくり。優しい心をいただいたなあと思いました。ちょっとした行為や言葉って、人の心をうれしく、幸せに、温いものにしてくれるのですね。優しく豊かな心や、思いやりの心って、その人の言葉や行いになって出てくるものなのですね。思いやりのある優しく豊かな心はだれの心にもあるはずです。でも自分の心に余裕がないと自然には出てこないものかもしれません。

先日の下小フェスティバルでも、下級生に喜んでもらおう、楽しんでもらおうとする上級生の優しさや気遣いが低学年の皆さんに対して発揮されていました。いい姿だなあ、いい雰囲気だなあ嬉しく思いつつ、さて一方、逆のことはないのかな…。ちょっとしたことや言葉でいやな思いや悲しい気持ちにさせられている子はいないのかな…。殴る、蹴るなどの暴力は言うまでもないのですが、「ばーか」「死んでしまえ」とか「きたねえ」「ばい菌」とか人をのけ者やじゃま者扱いにしたり、馬鹿にしたりするような言葉や行いは本校にはないのかな…と心配にも思いました。たとえ、うっかり出た、冗談半分の言葉であってもこのようなことは許されません。また、ふだん、おとなしく静かであったり、控えめな子が、いやなことをされたり言われたり、押しつけられたりしていることはないか心配でもあります。このような私の心配事が果たして本校にはないのか、全校の児童にも問いかけました。

お家でもお子様とのコミュニケーションを深める中で、心配なことがございましたら、遠慮なくお知らせいただければ幸いです。

